アムスルだより

No.35 1999年 1月13日

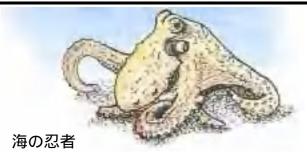


Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

http://www02.u-page.so-net.ne.jp/pb3/saburo

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@ryukyu.ne.jp



-タコとイカ-

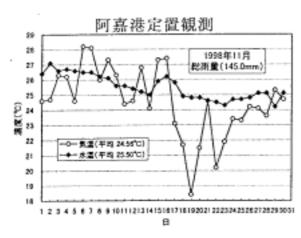
ふつうの動物は、頭があってその下に胴体、そして足というようにつながっています。ところが、タコやイカは、頭(目のあるところ)と胴体(内臓のあるところ)は他の動物と同じようにつながっているのですが、足が胴体の下ではなく、頭の上についています。このため、この仲間に「頭足類」と呼ばれています。今回は、この奇妙な形をしたタコとイカについてお話しましょう。

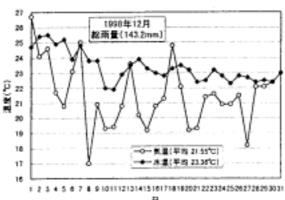
しまいました。その当時、貝殻は外敵から身を守るのに役立っていたのでしょうが、 タコやイカは、それをなくすかわりに新し い技を身につけました。その技のひとつ がめくらましを伴った高速移動です。

タコの仲間は、腕を使って海底を這っ たり、イカの中には、コブシメのように胴 体の横についているヒレで移動したりで きるものもいます。けれども、タコもイカも いざ急いで逃げようというときには、ろう 斗という所からジェット噴射のようにいき おいよく水を噴き出し、かなり速いスピー ドで泳いでいきます。おまけに、スミまで 吐くので、見失うこともしばしばです。こ のスミにも、タコとイカとで違いがあります。 タコのスミはさらさらしていて、吐き出され ると海の中でわっと広がりますが、イカの スミはタコのものより粘りがあり、海中でか たまりをつくります。つまり、逃げるとき、 タコはスミを煙幕にして霧隠れの術を使 うのですが、イカはスミを身代わりにする 分身の術を使うというわけです。

タコやイカ(特にコウイカの仲間)のもうひとつのすごい技、それは、カムフラージュの能力です。タコやイカは、黒い岩の上では黒、赤っぽい石の上では赤、白っぽい砂の上では白、と自分の体色を変えてカムフラージュし身を隠す、隠身の術を使うのです。こうやって瞬間的に体色を変えられるのは、非常によく発達し

た色素細胞のおかげです。おまけにタコは、体の表面の形までも海底の凸凹そっくりにまねることができるので、見付けるとなると結構大変です。そういう意味では、イカよりも一枚上手と言えるかもしれません。けれど、どうもタコ自身は、自分のカムフラージュに自信がないようです。





えてみたのですが、どうやらタコとしては、 海藻を演じているようです。そう思って見 てみると、体の表面の突起も、腕の巻き 方も、そして波にまかせて左右に動く海 技力もなかのものです。まわりに海 藻もないのに一体どこでまね方を覚えいのでしょうか、それともどうしようもない時にはああいう形になるものなのか、不思 議です。もし海藻のまねならば、タコはと や形だけでなく動きまでもまねをすることができるということになります。

最後に、危険なタコの話をしておきます。先日もヒズシで見かけたのですが、この辺りの海の浅いところにはヒョウモンダコという体長 10cm 程の小さなタコがいます。あたま(本当は胴体)の先がとがっていて、体中に青紫色の紋があるのですでに分かります。このタコには毒があり、かまれるとけいれんを起こしたり、ときには死ぬこともあるそうです。きれいだからといってうっかり手を出してかまれないように、気を付けて下さい。

阿嘉島の海より

-注目される慶良間のサンゴ礁-

あけまして、おめでとうございます。 今、慶良間のサンゴ礁が国内外で注目 されています。昨年の 11 月に京都で開催された生物多様性モニタリングは、国際 (東アジア・オセアニア班)では、国際して (東アジア・オセアニア班)では、国際 (東アジア・オセアニア班)では、国際 のサンゴ礁でサンゴの白化が広がって のサンゴ礁でサンゴの白化が広がって るため、阿嘉島臨海研究所も白化コー るため、阿嘉島に研究所のスタッフ を行っています。研究所のスタッフ るたりたいと思いますので、本年もよく お願い致します。